



デジタル消防・防災無線自動測定 ソフトウェア（T61/79/86用） MX269057A 操作手順

測定対象：ARIB STD-T61、ARIB STD-T79、ARIB STD-T86など

シグナルアナライザ
MS2830A

目次

1.はじめに	3
2.測定前の準備	4
3.測定器と無線機の接続	5
4.ソフトウェアの立上げ	7
5.ソフトウェアの設定	8
測定前の基本設定	8
設定パラメータの初期化	9
測定対象の設定・補正の設定	10
送信電力・周波数・変調精度の設定	11
スプリアス（その他の帯域、近傍値域の設定）の設定	13
占有周波数帯幅の設定	14
隣接チャネル漏洩電力の設定	15
周波数（カウンタ）の設定	16
スプリアス（帯域外領域）の設定	17
設定したパラメータの保存/読込	18
6.測定	19
測定器（MS2830A）との接続	19
測定項目の選択と測定実行	21
スプリアス（2次高調波）で規格を割る場合	22
測定結果の保存（テキストデータ）	23
測定結果の保存（画面コピー）	24
ソフトウェアの終了	25
付録1 MX269017AのCommon Settingファイルの設定・保存方法	26

1. はじめに

デジタル消防・防災無線自動測定ソフトウェア（T61/79/86用）MX269057A（以下、本ソフトウェア）は、シグナルアナライザ MS2830A本体（以下、MS2830A）に搭載し、MS2830Aを自動制御して狭帯域デジタル無線機の送信特性を測定して結果取得および判定を行います。MX269057Aを外部PCにインストールして、外部PCからMS2830Aを制御することもできます。

詳細な操作方法に関しては下記取扱説明書をご覧ください。

M-W3777AW MX269057Aデジタル消防防災無線自動測定ソフトウェア（T61_79_86用）編

測定対象の通信方式

下記の通信方式の無線機に対して送信特性を測定できます。

注) 2FSK、4FSK、H-CPMなどFSK Errorを評価指標とする通信方式では本ソフトウェアはご利用いただけません。

ARIB STD-T61、ARIB STD-T79、ARIB STD-T86

その他（ $\pi/4$ DQPSK、QPSK、16QAM、64QAMなどEVM^注を評価指標とするもの）

MS2830A基本構成

形名/品名：	MS2830A / シグナルアナライザ		
オプション：	MS2830A-040	（上限周波数：3.6 GHz）	} 周波数オプションは いずれか一つ選択
	MS2830A-041	（上限周波数：6 GHz）	
	MS2830A-043	（上限周波数：13.5 GHz）	
	MS2830A-002	（高安定基準発振器）	
	MS2830A-006	（解析帯域幅10 MHz）	
	MS2830A-066	（低位相雑音）	
ソフトウェア	MX269017A	（ベクトル変調解析ソフトウェア）	
	MX269057A	（デジタル消防・防災無線自動測定ソフトウェア）	

2. 測定前の準備

本ソフトウェアを使用する前に手動操作で予熱およびキャリブレーションを行ってください。

1. MS2830A、電源投入後に予熱を**30分以上**行ってください。
2. MS2830Aは測定の前にキャリブレーション（**CAL**）を行ってください
 - ① MS2830Aを無入力にします。
 - ② [CAL]→[F1:SIGANA ALL] ※約1分
 - ③ CALが終了したら [F8:Close]



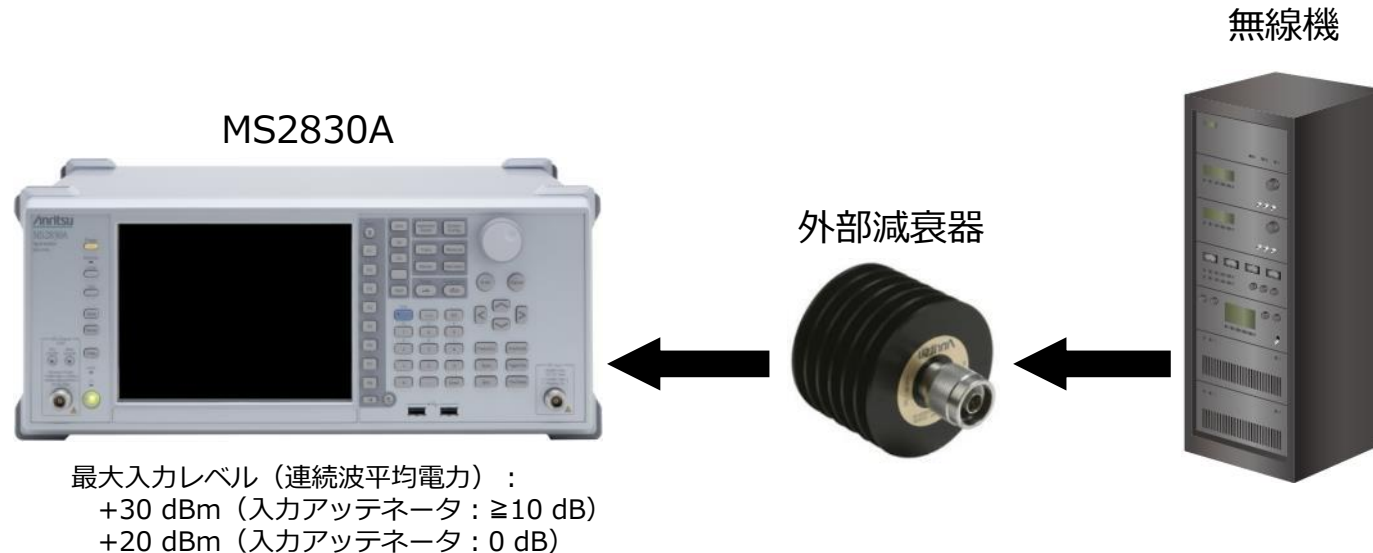
3. 測定器と無線機の接続

MS2830Aの最大入力レベル

MS2830Aの最大入力レベルは**+30 dBm**（内蔵減衰器:10 dB）です。

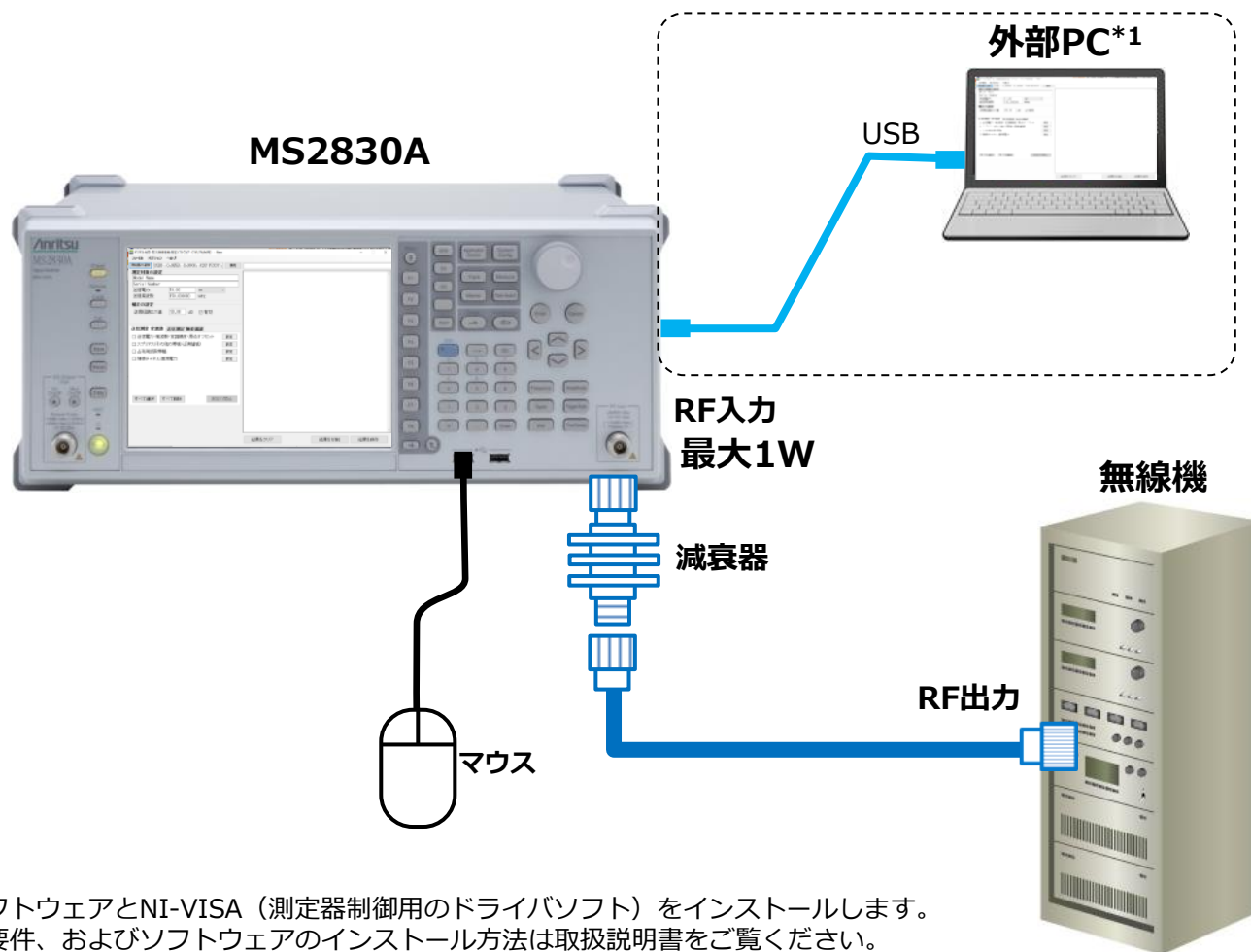
この値を超える電力を測定する場合は、MS2830Aに入力される電力が**+30 dBm以下**になるように**外部減衰器**を使用してください。その際、平均電力ではなくピーク電力が+30 dBm以下となるように注意してください。（平均電力0～+20 dBm程度を推奨）

+30 dBm以上（内蔵減衰器:10 dB）の信号を入力すると測定器の内部回路が破損します。



3. 測定器と無線機の接続

本ソフトウェアはMS2830Aに搭載して実行できます。
または外部PCにインストールして、USB経由でMS2830Aを制御することもできます。



*1 : 外部PCに本ソフトウェアとNI-VISA（測定器制御用のドライバソフト）をインストールします。
外部PCの必要要件、およびソフトウェアのインストール方法は取扱説明書をご覧ください。

M-W3777AW MX269057Aデジタル消防防災無線自動測定ソフトウェア（T61_79_86用）編

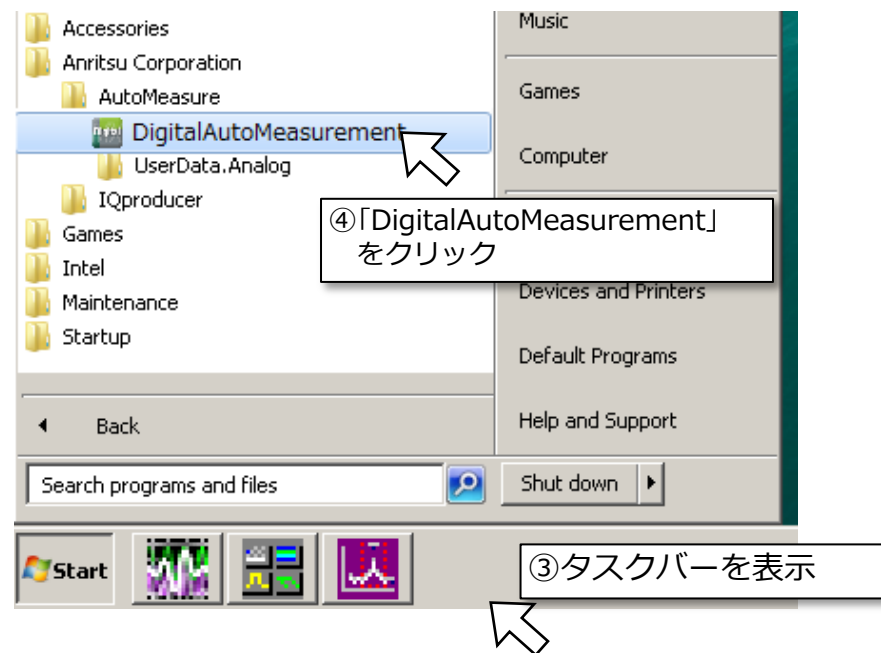
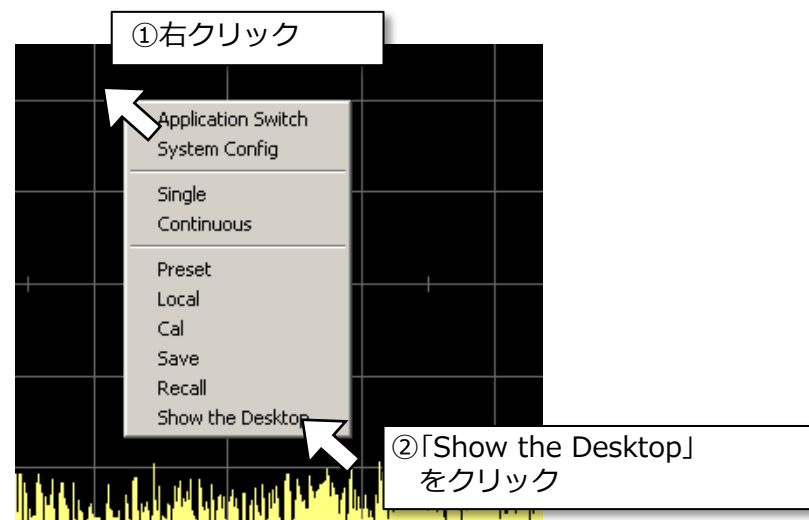
4. ソフトウェアの立上げ

MS2830A搭載の場合

1. 画面上でマウスを右クリックします。
小ウィンドウが開きます。
2. 小ウィンドウ一番下の「Show the desktop」をクリックします。
画面がWindowsのデスクトップになります。
3. ポインタを画面の一番下側へ移動させて
タスクバーを表示させます。
4. [Start]→
[All Programs]→
[Anritsu Corporation]→
[AutoMeasure]→
[DigitalAutoMeasurement]
でソフトウェアを立ち上げます。

外部PCの場合

上記の4項でソフトウェアを立ち上げます。

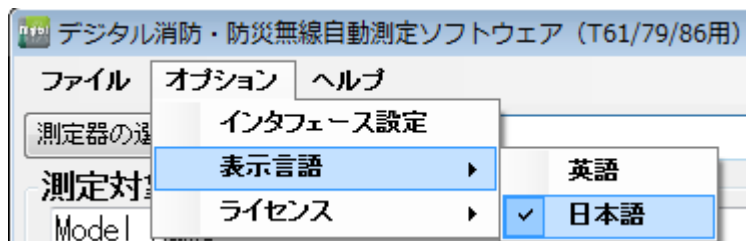


5. ソフトウェアの設定

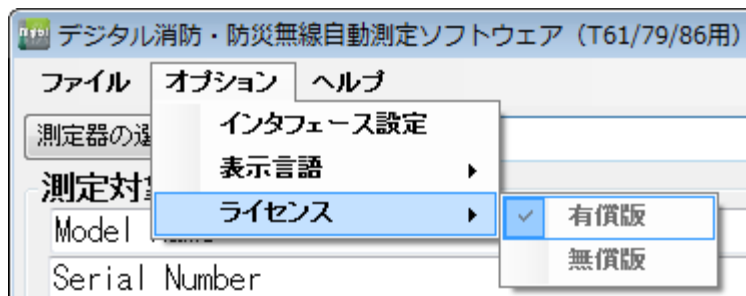
測定前の基本設定

1. 画面左上の「オプション」をクリックします。
2. 以下の設定と確認ができます。
 - ・表示言語：日本語/英語の選択
 - ・ライセンス：有償版/無償版^注の確認

表示言語の設定



ライセンスの確認



有償版と無償版の機能比較表

測定項目・機能		有償版	無償版	備考
変調波測定	送信電力	○	○	MX269017A で測定します。 無償版は MX269017A の Predefined* に対応する波形のみ 測定できます。
	送信周波数	○	○	
	変調精度	○	○	
	原点オフセット	○	○	MX269017A のユーザデファインド ファイルを用いて測定できます。
	ユーザデファインドファイルの指定	○	×	
	スプリアス (その他の帯域・近傍帯域)	○	○	
	占有帯域幅	○	○	
無変調波測定	隣接チャネル漏洩電力	○	○	
	周波数測定 (周波数カウンタ)	○	○	
	スプリアス (帯域外領域)	○	○	
その他	総合判定	○	×	全測定の総合判定を出力します。
	パラメータファイルのセーブ・ロード	○	×	

注) 無償版はサンプルソフトウェアです。一部の設定・総合判定・パラメータのセーブ・ロードには対応していません。また機能追加等の更新も対象外です。無償版でお試しいただいて、実際のご利用には有償版をご検討ください。

無償版は、MS2830Aに標準添付のDVD-ROMに格納されているほか、MS2830AとMX269017Aをご注文いただいた場合にMS2830A本体にインストールして出荷します（2015年5月7日以降のご注文分から）。また、アンリツソフトウェアダウンロードサイトよりダウンロードできます（ユーザ登録が必要）。

<https://www.my.anritsu.com/home>

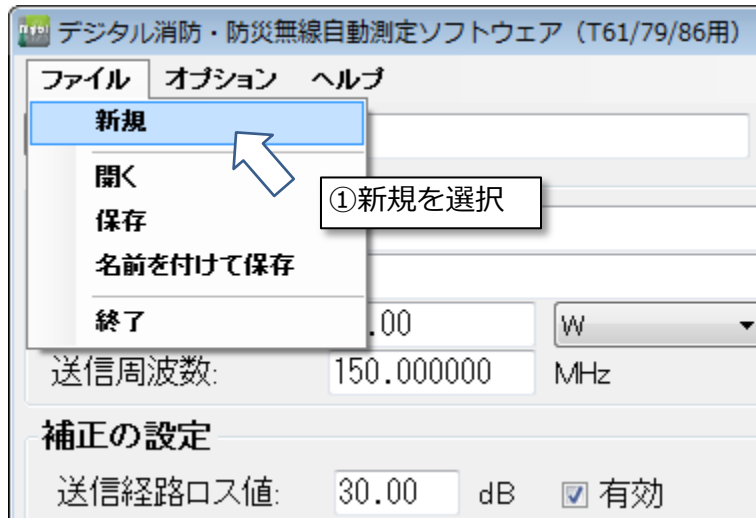
アンリツは、お客様に提供する「サンプルソフトウェア」に関して、お客様に対し、いかなる保守サービスも提供する義務を負うものではないとともに、お客様に対し、「サンプルソフトウェア」について、法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示または黙示の保証をしないものとします。また、「サンプルソフトウェア」使用等に関し、第三者の工業所有権、著作権、その他の権利を侵害したという理由に基づいて、第三者からなされるいかなる請求に対しても責任を負わないものとします。

5. ソフトウェアの設定

設定パラメータの初期化

すでにパラメータが設定されている状態から別の条件で測定を行う際には、すでに設定されているパラメータを初期化してから新しいパラメータを設定します。

1. 「ファイル」→「新規」を選択します。



5. ソフトウェアの設定

測定対象の設定・補正の設定：無線機情報および測定系のロス

無線機の送信電力と送信周波数の公称値、および外部接続している減衰器やケーブルなど測定系のロス（減衰量）を設定します。

無線機の型名、製造番号などのメモ用入力欄

送信電力を入力

送信周波数を入力

無線機とMS2830Aの間の減衰器やケーブルなど測定系のロス（dB）を設定

チェックすると測定結果に送信経路ロス値を反映

MS2830A

減衰器

ケーブル

無線機

減衰器やケーブルのロス

5. ソフトウェアの設定

送信電力・周波数・変調精度の設定 (1/2)

「送信測定・変調波」
タブをクリック

「設定」をクリックして設定画面を
表示。設定後に再度クリックして
設定画面を非表示。

送信測定 変調波 送信測定 無変調波

☐ 送信電力・周波数・変調精度・原点オフセット

☐ スプリアス(その他の帯域・近傍値域)

☐ 占有周波数帯幅

☐ 隣接チャネル漏洩電力

チェックすると
測定後に判定

チェックすると測定後に画面コピーを
自動で保存。※保存場所はP24参照

ベクトル変調解析測定 ☐ 測定画面の保存

ベクトル変調解析測定の設定

Common Setting ファイル:
T61_SCPC_v1_0_SC

Common Setting ファイル名:
次ページ参照

送信電力測定の設定

☐ USB/パワーセンサを使用する。(MA24108A/MA24118A)

☒ 判定する
許容値: -50 % ≤ 送信電力 ≤ 20 %

周波数測定の設定

☒ 判定する
許容値: 送信周波数 ± 2.5 ppm

変調精度測定の設定

☒ 判定する
許容値: 変調精度 ≤ 10 %

原点オフセット測定の設定

☐ 判定する
許容値: 原点オフセット ≤ -10 dB

無線規格等を参照し
て許容値を設定

5. ソフトウェアの設定

送信電力・周波数・変調精度の設定（2/2）

無線規格と無線機の種類により下表からCommon Setting ファイルを選択します

無線規格	無線機の種類		選択するファイル名
ARIB STD-T61	SCPC方式	本編規格	T61_SCPC_v1_0_SC
		参考規格	バースト長:40ms T61_SCPC_v1_1_40ms_SC
			バースト長:20ms T61_SCPC_v1_1_20ms_SC
	FDMA方式	基地局	T61_FDMA_PSC_DL
		移動局	T61_FDMA_PSC_UL
ARIB STD-T79	基地局		RCR39_PI4DQPSK_TCH_DL
	移動局		RCR39_PI4DQPSK_TCH_UL
ARIB STD-T86	基地局		T86_TCH_DL T86_CCH_DL
	移動局		T86_TCH_UL T86_CCH_UL
任意	基地局・移動局		User File

デフォルトの
パラメータファイル

デフォルトのパラメータファイルでは測定できない場合には「User File」をご利用ください。

事前にMS2830Aでベクトル変調解析ソフトウェア MX269017A（以下、MX269017A）を起動して、無線機を測定できるようにパラメータを設定して任意のファイル名称で保存します。次に、本ソフトウェアで「User File」を選択し、事前に保存したファイル名称を指定するとCommon Settingファイルに読み込んで利用できます。

MX269017AのCommon Settingファイルの設定・保存方法は付録1をご覧ください。

MX269017AのパラメータはMS2830A内部の下記フォルダに保存してください。

D:\¥Anritsu Corporation¥Signal Analyzer¥UserData¥Parameter Setting¥VMA¥Dialog Param

5. ソフトウェアの設定

スプリアス（その他の帯域、近傍値域）の設定

「送信測定・変調波」
タブをクリック

「設定」をクリックして設定画面を
表示。設定後に再度クリックして
設定画面を非表示。

送信測定 変調波 送信測定 無変調波

☐ 送信電力・周波数・変調精度・原点オフセット 設定

☒ スプリアス(その他の帯域・近傍値域) 設定

☐ 占有周波数帯幅 設定

☐ 隣接チャネル漏洩電力 設定

すべて選択 すべて解除 測定の開始



対象の無線通信規格を
選択して「設定」をクリック

チェックすると測定後に画面コピーを
自動で保存。※保存場所はP24参照

スプリアス測定(その他の帯域・近傍帯域) ☐ 測定画面の保存

スプリアス測定(その他の帯域・近傍帯域)の設定

規格: ARIB STD-T61 設定 注1

セットされた規格: ARIB STD-T61 注2

その他の帯域 近傍帯域2 近傍帯域1

区間1 区間2 区間3 区間4 区間5 区間6

☒ 測定する

掃引開始周波数: 0.009000 MHz

掃引終了周波数: 0.150000 MHz

アッテネータ: Auto

分解能帯域幅: 1 kHz

ビデオ帯域幅: 3 kHz

検波モード: Positive

掃引時間: 40000 ms ☐ 自動 注3

☒ 判定する

許容値1: 25.000 uW

許容値2: -60 dBc

☐ 掃引前に一時停止する

☒ 追い込み(ゼロスパン)測定する

追い込み(ゼロスパン)測定の設定

マージン: 3.00 dB

分解能帯域幅: 1 kHz

ビデオ帯域幅: 3 kHz

検波方式: RMS

- 注1) 測定対象の送信周波数を変更した場合、再度「設定」をクリックすることで各区間の掃引周波数範囲を再計算して設定します。
- 注2) 「設定」をクリックした後、各パラメータは必要に応じて変更してください。「設定」をクリックすると「セットされた規格」の表示は自動設定された規格が表示されますが、設定を変更すると「Other」に変わります。
- 注3) バースト信号を測定する場合、「掃引周波数幅÷分解能帯域幅」もしくは「トレースポイント(1001)」のいずれが大きい値に「バースト周期(例: 40ms)」をかけてください。
例: $1001 \times 40\text{ms} \div 40\text{s}$

5. ソフトウェアの設定

占有周波数帯幅の設定

「送信測定・変調波」
タブをクリック

送信測定 変調波 送信測定 無変調波

☐ 送信電力・周波数・変調精度・原点オフセット

☐ スプリアス(その他の帯域・近傍値域)

☒ 占有周波数帯幅

☐ 隣接チャネル漏洩電力

すべて選択 すべて解除 測定の開始

「設定」をクリックして設定画面を
表示。設定後に再度クリックして
設定画面を非表示。

対象の無線通信規格を
選択して「設定」をクリック

チェックすると測定後に画面コピーを
自動で保存。※保存場所はP24参照

占有周波数帯幅測定 測定画面の保存 ☒

占有周波数帯幅測定の設定

規格: ARIB STD-T61 注1

セットされた規格: ARIB STD-T61

掃引周波数幅: 12.500 kHz

分解能帯域幅: 30Hz

ビデオ帯域幅: 30Hz

検波モード: Positive

掃引時間: 40000 ms ☐ 自動

平均処理回数: 1

☒ 判定する

許容値: 5.800 kHz

注1) 「設定」をクリックした後、各パラメータは必要に応じて変更してください。「設定」をクリックすると「セットされた規格」の表示は自動設定された規格が表示されますが、設定を変更すると「Other」に変わります。

5. ソフトウェアの設定

隣接チャネル漏洩電力の設定

「送信測定・変調波」
タブをクリック

送信測定 変調波 送信測定 無変調波

☐ 送信電力・周波数・変調精度・原点オフセット

☐ スプリアス(その他の帯域・近傍値域)

☐ 占有周波数帯幅

☒ 隣接チャネル漏洩電力

すべて選択 すべて解除 測定の開始

「設定」をクリックして設定画面を
表示。設定後に再度クリックして
設定画面を非表示。

対象の無線通信規格を
選択して「設定」をクリック

チェックすると測定後に画面コピーを
自動で保存。※保存場所はP24参照

隣接チャネル漏洩電力測定

☐ 測定画面の保存

隣接チャネル漏洩電力測定の設定

規格: ARIB STD-T61 注1

セットされた規格: ARIB STD-T61

掃引周波数幅: 25.000 kHz

分解能帯域幅: 100Hz

ビデオ帯域幅: 300Hz

検波モード: Positive

掃引時間: 40000 ms ☐ 自動

規定帯域幅: 4.800 kHz

チャンネル間隔: 6.250 kHz

☒ 判定する 許容値1または許容値2

許容値1: 32.000 uW

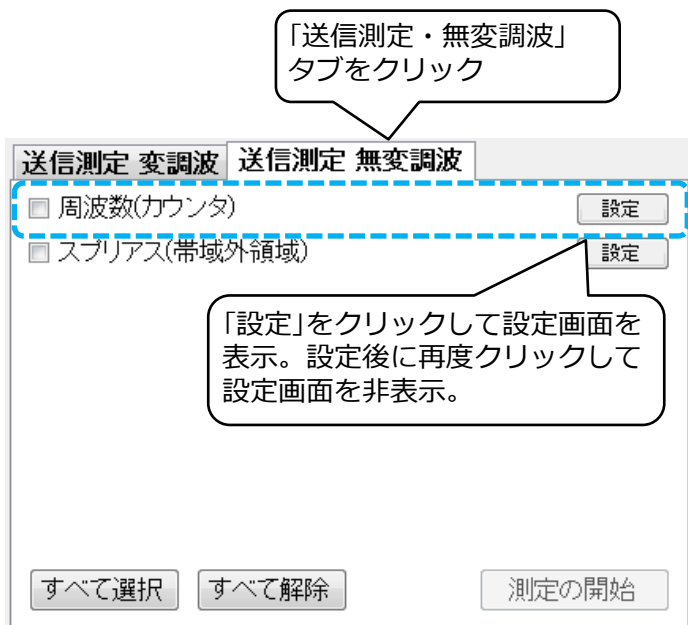
許容値2: -55 dBc

注1) 「設定」をクリックした後、各パラメータは必要に応じて
変更してください。「設定」をクリックすると「セットさ
れた規格」の表示は自動設定された規格が表示されますが、
設定を変更すると「Other」に変わります。

5. ソフトウェアの設定

周波数（カウンタ）の設定

無線機の変調を止めて無変調波（CW）を出力した状態で測定します。



周波数(カウンタ)測定

周波数(カウンタ)測定の設定

☒ 判定する

許容値: $\pm$ 2.5 ppm

無線機から無変調波（CW）信号を出力して、周波数カウンタ機能で測定します。電波法に沿った試験では、基本的にご利用ください。

「送信電力・周波数・変調精度」（P11）で測定する周波数は、無線機から変調信号を出力して、ベクトル変調解析機能で測定します。

5. ソフトウェアの設定

スプリアス（帯域外領域）の設定

無線機の変調を止めて無変調波（CW）を出力した状態で測定します。

「送信測定・無変調波」タブをクリック

送信測定 変調波 送信測定 無変調波

☐ 周波数(カウンタ) 設定

☐ スプリアス(帯域外領域) 設定

「設定」をクリックして設定画面を表示。設定後に再度クリックして設定画面を非表示。

すべて選択 すべて解除 測定の開始

注1) 「設定」をクリックした後、各パラメータは必要に応じて変更してください。「設定」をクリックすると「セットされた規格」の表示は自動設定された規格が表示されますが、設定を変更すると「Other」に変わります。

チェックすると測定後に画面コピーを自動で保存。※保存場所はP24参照

対象の無線通信規格を選択して「設定」をクリック

スプリアス測定(帯域外領域) 測定画面の保存

スプリアス測定(帯域外領域)の設定

規格: ARIB STD-T61 設定 注1

セットされた規格: ARIB STD-T61

帯域外領域

☒ 上側測定する

☒ 下側測定する

掃引周波数幅: ± 62.500 kHz
(ただし ± 5.800 kHz / 2を除く)

アッテネータ: Auto

分解能帯域幅: 1 kHz

ビデオ帯域幅: 1 kHz

検波モード: Positive

☒ 判定する 許容値1または許容値2

許容値1: 2.500 uW

許容値2: -60 dBc

☒ 詳細測定する

5. ソフトウェアの設定

設定したパラメータの保存/読込（開く）

1. 起動時のパラメータ：

本ソフトウェアを立ち上げた時は、前回終了した時の設定が保存されています。

2. パラメータの保存：

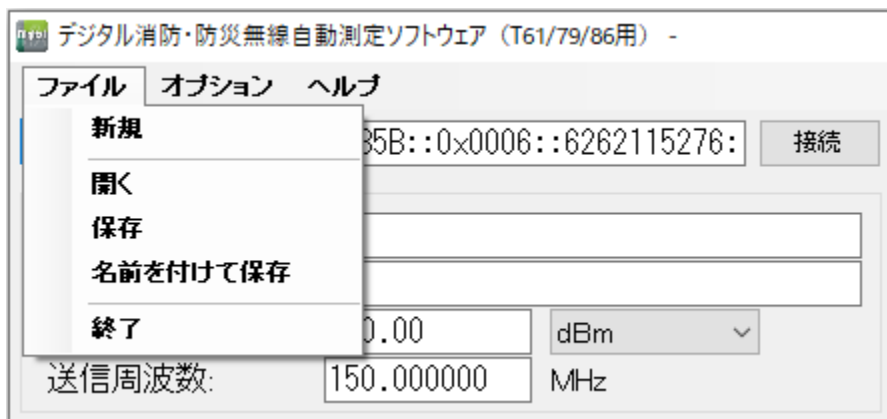
画面左上側の「ファイル」から「保存」を選択します。

ウィンドウズのファイル保存画面で設定ファイルを保存します。

3. パラメータの読込：

画面左上側の「ファイル」から「開く」を選択します。

ウィンドウズのファイル読込画面で設定ファイルを読み込みます。

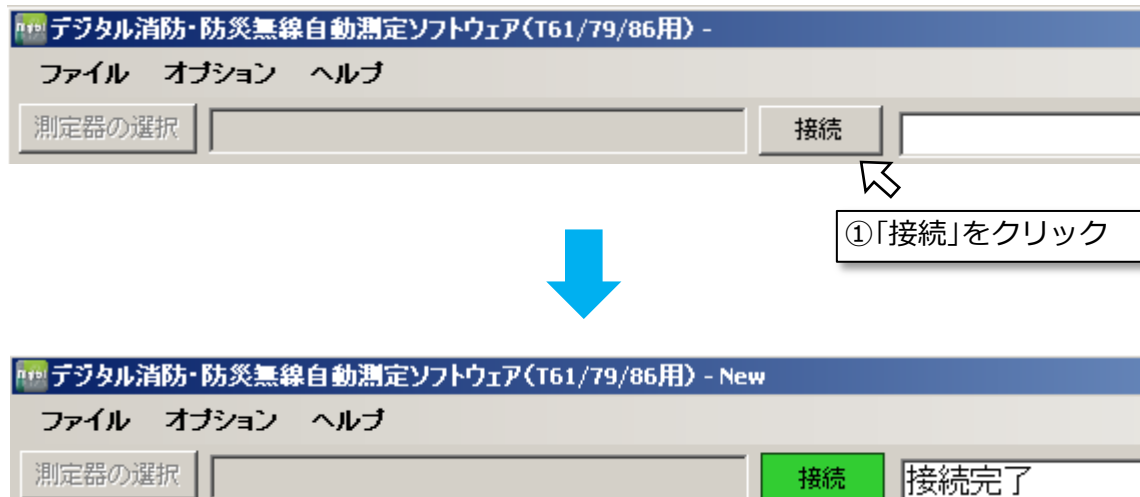


6. 測定

MS2830Aと本ソフトウェアの接続（1/2）

MS2830A搭載の場合

1. 画面左上の「接続」をクリックします。
2. 「接続」が緑色になり、右側に「接続完了」と表示されます。



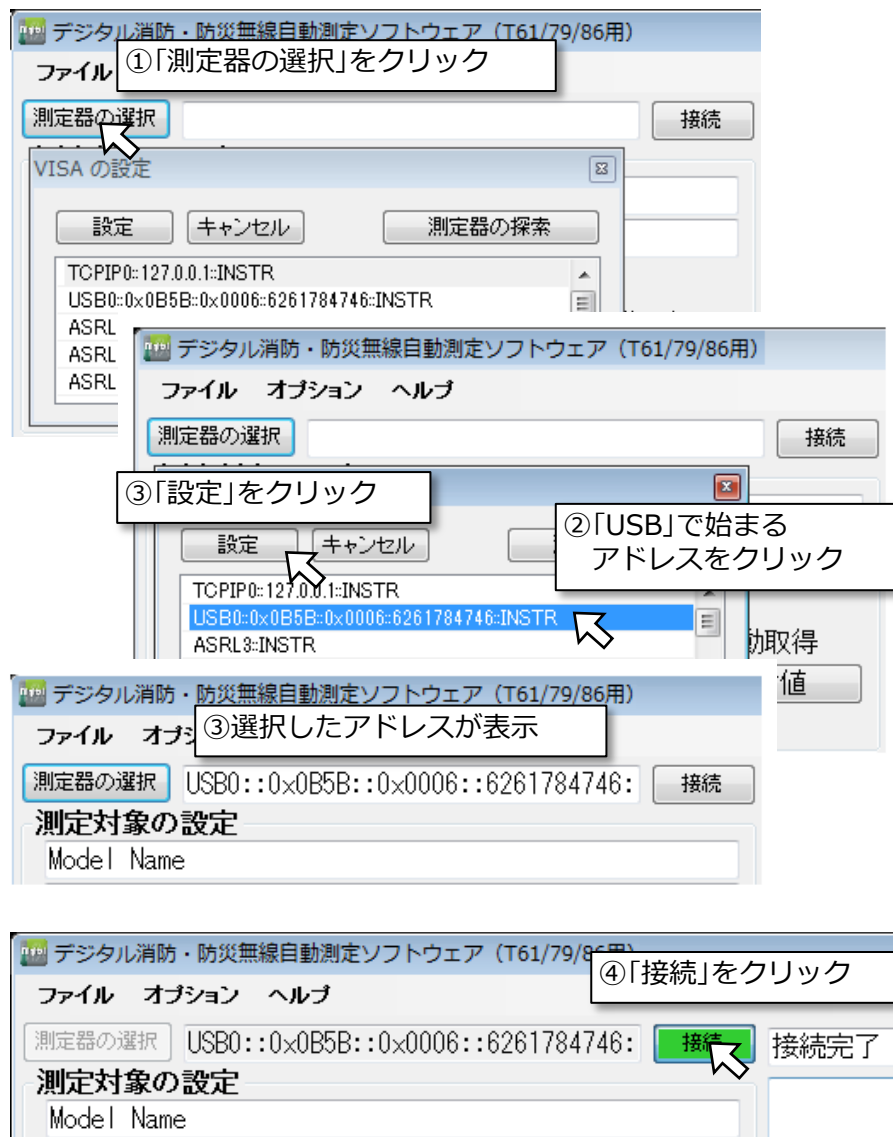
6. 測定

MS2830Aと本ソフトウェアの接続（2/2）

外部PCの場合

1. 画面左上の「測定器の選択」をクリックします。
小ウィンドウが開きます。
2. 小ウィンドウ中で「USB」で始まるアドレスをクリックして選択します。
（青色背景になります）
3. 小ウィンドウ中の「設定」をクリックします。
小ウィンドウが閉じて選択したアドレスが表示されます。
4. 画面中央上にある「接続」をクリックします。
「接続」が緑色になり、右側に「接続完了」と表示されます。

測定器（MS2830A）との接続が完了しました。



6. 測定

測定項目の選択と測定実行

1. 測定項目に応じて「送信測定 変調波」「送信測定 無変調波」のタブを切り替えます。
2. 測定する項目は、左にあるチェックボックスにチェックを入れます。
3. 「測定の開始」を押します。測定が実行されます。

①タブをクリックすることで、変調波の測定と無変調波の測定を切り替えます。

6. 測定

スプリアス（2次高調波）で規格を割る場合

測定器（MS2830A）内部で発生する歪の影響により、スプリアス測定において特に2次高調波が含まれる周波数区間（例：区間4）で許容値を満たさない場合があります。その場合、アッテネータを調整（増やす）してから測定してください。

例：その他4で許容値を満たさない場合、「アッテネータ」を増やして再測定します。

* スプリアス キャリア				
区分	周波数	ピークレベル	許容値	
[OK]その他1	16.854 kHz	-85.85 dBc (-56.90 dBm)	-31.05 dBm	
[OK]その他2	373.875 kHz	-85.06 dBc (-56.11 dBm)	-31.05 dBm	
[OK]その他3	463.970 MHz	-72.55 dBc (-43.60 dBm)	-31.05 dBm	
[N]その他4	930.219 MHz	-57.64 dBc (-28.69 dBm)	-31.05 dBm	
[OK]その他5	1395.000 MHz	-65.96 dBc (-37.01 dBm)	0.00 dBm	
[OK]近傍下	465.005 MHz	-86.60 dBc (-57.65 dBm)	-46.28 dBm	
[OK]近傍上	465.163 MHz	-86.71 dBc (-57.76 dBm)	-46.28 dBm	
[OK]帯域外下	465.080 MHz	-85.82 dBc (-56.87 dBm)	-51.05 dBm	
[OK]帯域外上	465.149 MHz	-113.78 dBc (-84.83 dBm)	-51.05 dBm	

1. 例としてスプリアス測定の設定で「区間4」のタブをクリックします。（2次高調波が含まれる周波数区間）
2. 「アッテネータ」の値を「Auto」から次の値に近い値に調整します。

例) 公称電力 (dBm) - 外部減衰量 (dB) + 20

公称電力: 10W (40 dBm)
外部減衰量: 30 dB
30dB (=40-30+20) を設定する

その他の帯域 近傍帯域2 近傍帯域1

区間1 区間2 区間3 区間4 区間5 区間6

①「区間4」をクリック

☒ 測定する

掃引開始周波数: 151.000000 MHz

掃引終了周波数: 1000.000000 MHz

アッテネータ: Auto

分解能帯域幅: 16dB 18dB 20dB 22dB 24dB 26dB 28dB 30dB 32dB 34dB

ビデオ帯域幅: 20dB

検波モード: 1ms

掃引時間: 1ms

☒ 判定する

許容値1: 許容値2: -60 dBc

☐ 掃引前に一時停止する

☒ 追い込み(ゼロスパン)測定する

追い込み(ゼロスパン)測定の設定

マージン: 3.00 dB

分解能帯域幅: 100kHz

ビデオ帯域幅: 300kHz

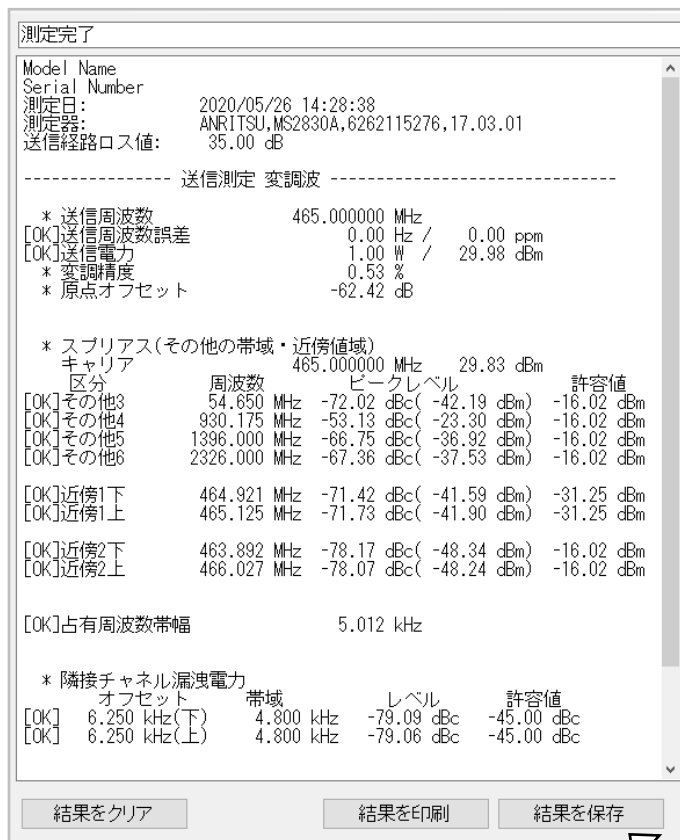
検波方式: RMS

②アッテネータを調整

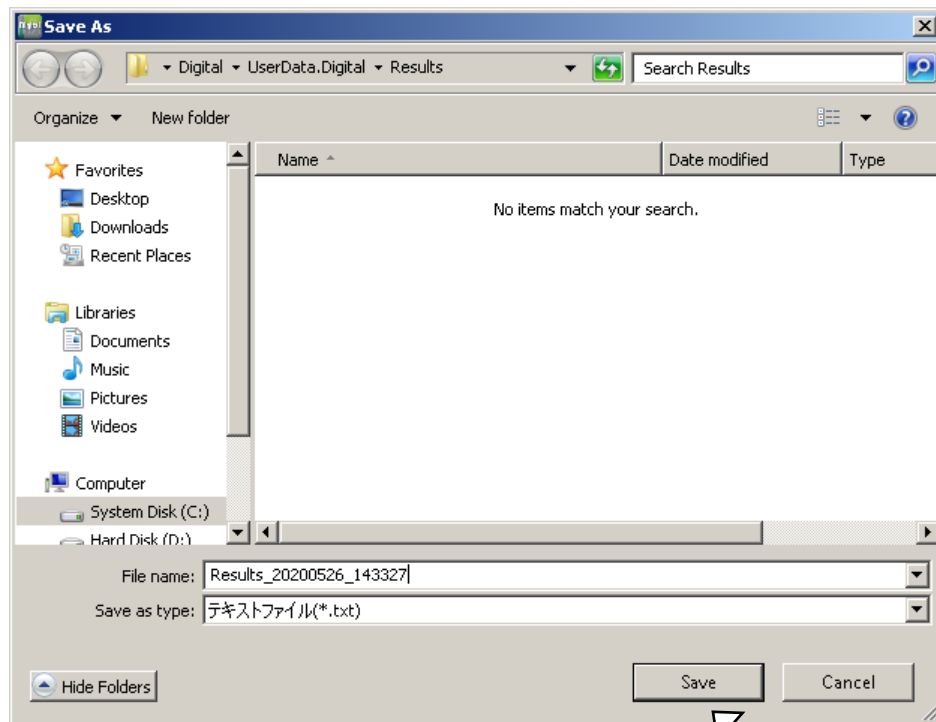
6. 測定

測定結果の保存（テキストデータ）

1. 画面右下の「結果を保存」をクリックします。
2. ファイル保存画面が開きますので任意のフォルダに保存します。
USBキーボード等を使用すればファイル名を任意に設定できます。（英数字のみ）



①「結果の保存」をクリック

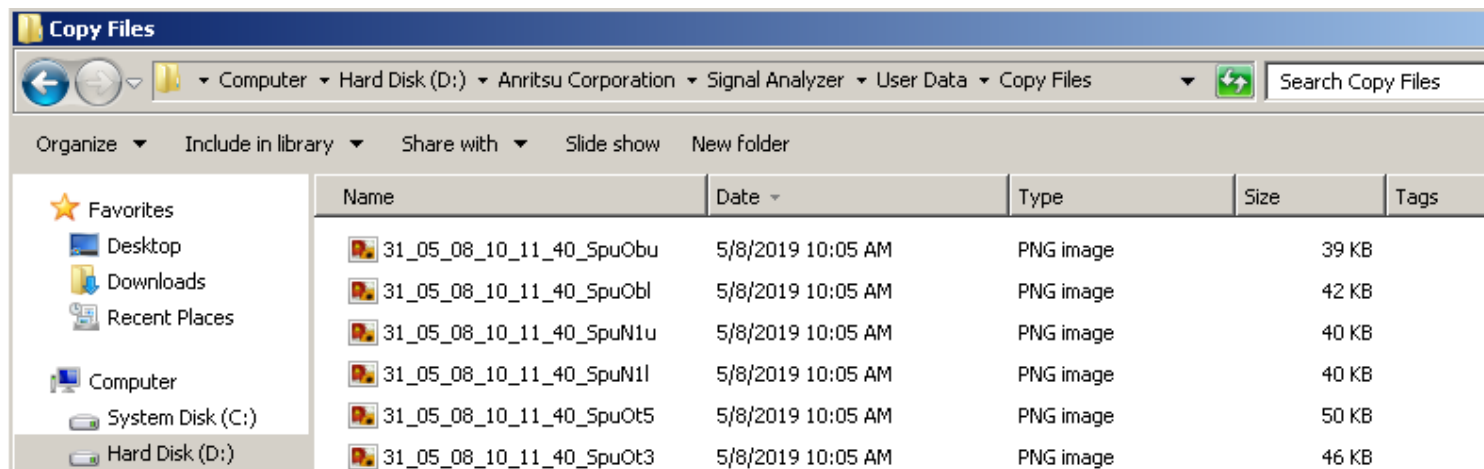


②ファイルを保存

6. 測定

測定結果の保存（画面コピー）

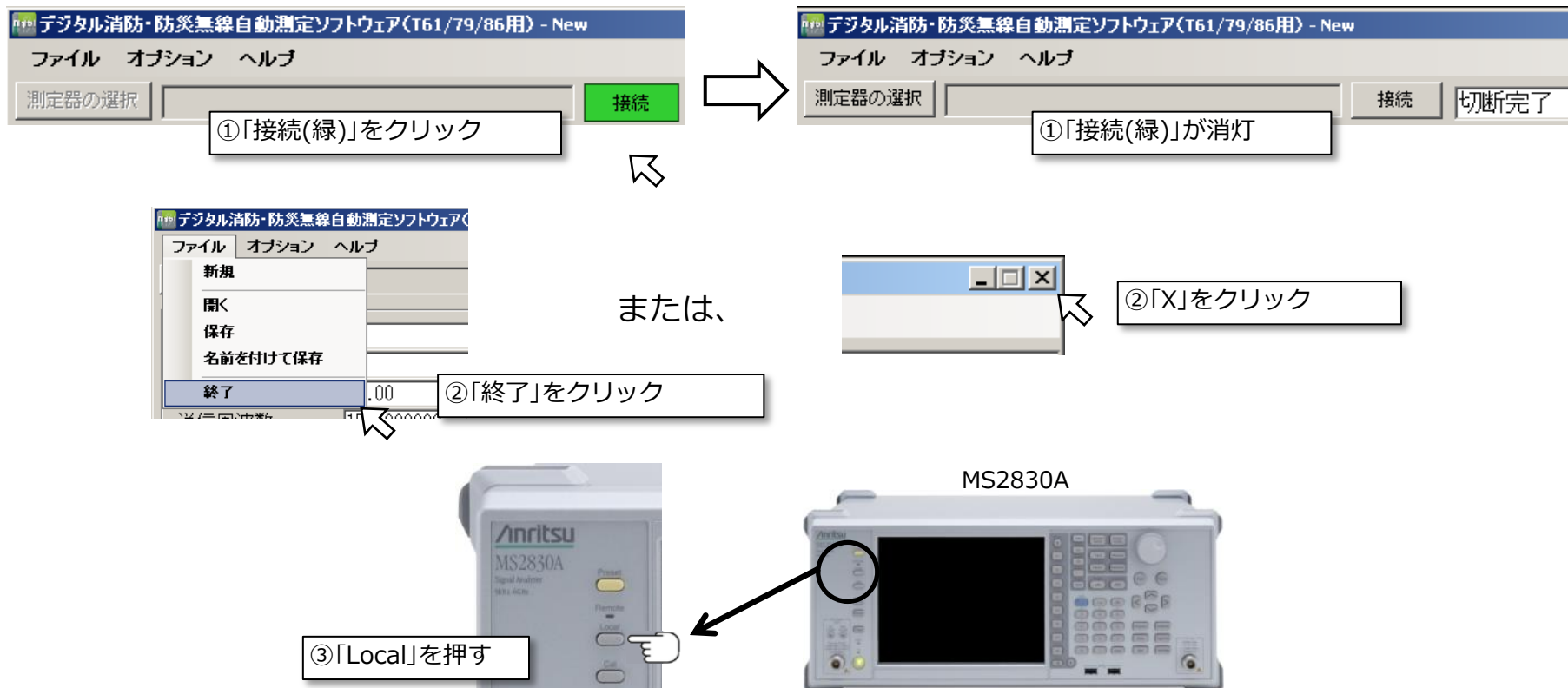
1. 測定画面のコピーファイルはMS2830A内のHDDに保存されます。
測定器の画面上でマウスを右クリックします。小ウィンドウが開きます。
2. 小ウィンドウ一番下の「Show the desktop」をクリックします。
画面がWindowsのデスクトップになります。
3. 画面上のポインタを一番下側へ移動させてタスクバーを表示させます。
4. [Start]→[Computer]でフォルダを表示させます。
5. [Hard Disk (D)]→[Anritsu Corporation]→[Signal Analyzer]→[User Data]→[Copy File]
を開きます。このフォルダ内に画面コピーが保存されています。



6. 測定

ソフトウェアの終了

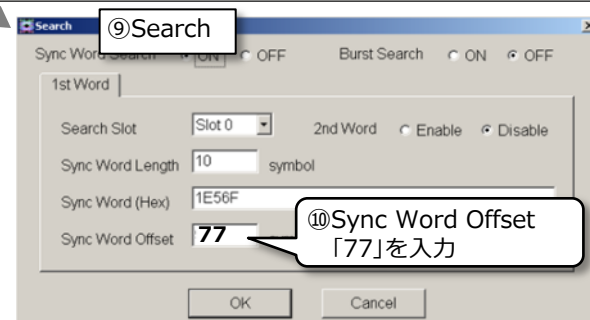
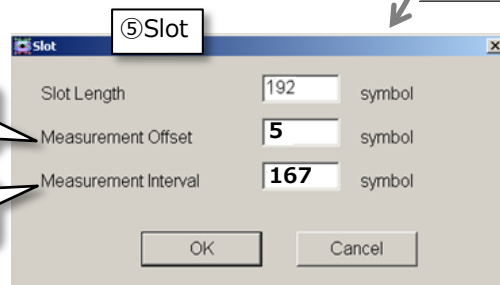
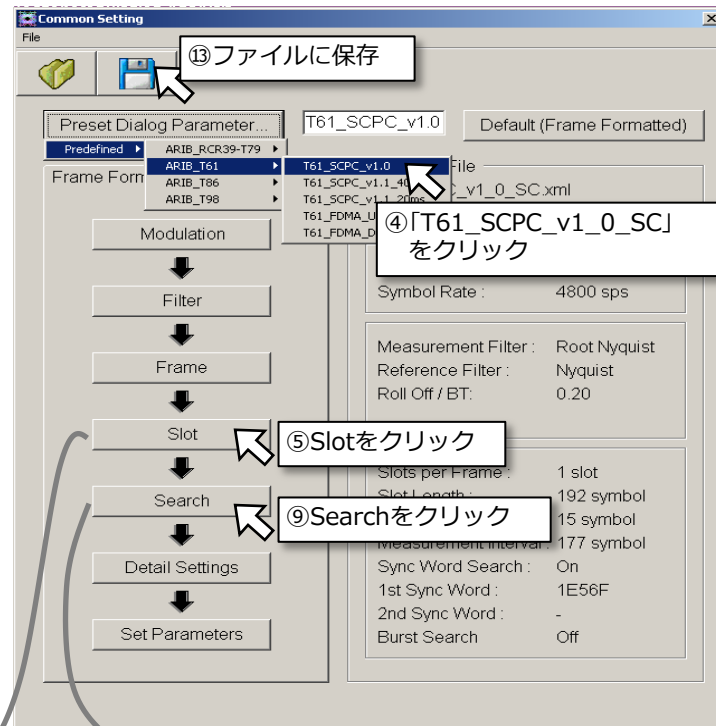
1. 画面中央上側の「接続（緑）」をクリックすると接続が切れます。
2. 画面左上から「ファイル」→「終了」をクリック、または画面右上の「X」をクリックして本ソフトウェアを閉じます。
3. MS2830A正面パネルの左側にある「Local」を押します。「Remote」が消灯しパネル操作が有効になります。 ※「Remote」ランプが点灯しているとパネル操作ができませんのでご注意ください。



付録1 : MX269017AのCommon Settingファイルの設定・保存方法

1. MS2830A内部でベクトル変調解析ソフトウェア MX269017Aを起動し、Common Settingファイルを設定してからパラメータファイルをMS2830A内部に保存します。※下記は設定の一例です。

①VMA選択	[Application Switch]→[F□:Vector Modulation Analysis]
②初期化	[Preset]→[F1:Preset]
③共通項目の設定	[F3:Common Setting] ウィンドウが立ち上がります。これ以降はマウスで操作します。
④初期値読出し (例 : T61)	[Preset Dialog Parameter]→ [Predefined] →[ARIB STD-T61]→[T61_SCPC_v1_0_SC]をクリック
⑤Slot情報を変更	[Slot]をクリック、小ウィンドウが立ち上がる
⑥オフセット値変更	[Measurement Offset]に[5]を入力 (例 : 5)
⑦解析長変更	[Measurement Interval]に[167]を入力 (例 : 167)
⑧設定終了	[OK]をクリック
⑨Search情報を変更	[Search]をクリック、小ウィンドウが立ち上がる
⑩オフセット値変更	[Sync Word Offset]に[77]を入力 (例 : 77)
⑪設定終了	[OK]をクリック
⑫設定を確定	[Set Parameters]をクリック
⑬ファイルに保存	[フロッピー]アイコンをクリック
⑭下記フォルダにファイル名「123」で保存します。 D:\¥Anritsu Corporation¥Signal Analyzer¥UserData¥Parameter Setting¥VMA¥Dialog Param	



付録1 : MX269017AのCommon Settingファイルの設定・保存方法

- 送信電力・周波数・変調精度の設定（P11参照）のCommon Setting ファイルで「**Use File**」を選択し、Common Setting ファイル名に「**123**」と入力します。

ベクトル変調解析測定 ☐ 測定画面の保存

ベクトル変調解析測定の設定

Common Setting ファイル:

User File

Common Setting ファイル名:

123

最大文字数：半角英数字50 文字

Common Setting ファイル名：

ベクトル変調解析ソフトウェア MX269017Aで使用する共通設定を任意の User File から読み出します。
「Common Setting ファイル」で **User File** を選択したときに設定できます。

「Common Setting ファイル名」はMS2830A内部 の下記ディレクトリに保存したファイル名を指定してください。

D:\¥Anritsu Corporation¥Signal Analyzer¥UserData¥Parameter Setting¥VMA¥Dialog Param

パラメータの保存方法については下記の取扱説明書をご覧ください。

『MX269017A ベクトル変調解析ソフトウェア取扱説明書 操作編』 3.4.2 Parameter Save/Recall

